

| 2023年度 シラバス原簿 | | | | | タイトル | 講義内容と事前事後学習内容 | | |
|------------------|---|-------|-----|---------|----------|--|---|--|
| 科目名 英語名 | 総合科学特論「日本と世界」 General Science ~In Japan and The World~ | | | | 1週 | ガイダンス | <p>事前 2.5hr シラバスの内容を読んでおく。自分が千葉工業大学に入学しようと思った動機を振り返り、まとめておく。</p> <p>授業、講師、成績判定の方法等を説明する。後半は、創立時の社会的背景を含めて千葉工大の創立の意義・目的を解説し、現代における千葉工大の役割と、そこで学ぶ意味を考察する。【講義担当：小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | |
| | 科目 担当者 | 小宮 一仁 | | | | 2週 | <p>情報化社会・グローバル化社会の中の日本(1)</p> <p>国際競争の激化に伴い企業は積極的に生産拠点を海外移転を進めている。また、労働力人口全体の減少に加えて、海外生産の増加や業績不振に伴う人員削減により、国内の製造業の就業者数は一貫して減少しているこのような日本の現状を講義し、日本の科学技術の課題について教授する。【講義担当：小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | |
| 開講学期 | | 時間数 | 単位数 | 科目の区分 | 曜日時限 | 履修制限 | 3週 | <p>情報化社会・グローバル化社会の中の日本(2)</p> <p>第4次産業革命によって世界は大きく変化しようとしている。特にICTの発展により、人々の働き方に大きな変化が生じている。ここでは、現在、また将来の、人々の働き方の変化について講義し、日本における課題について考察する。【講義担当：小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> |
| 5・7学期 | 2 | 2 | 選択 | 木曜日5・6限 | 特になし | | 4週 | <p>国際物流から見た日本と世界</p> <p>島国である日本は国の発展を国際物流に依存しているといっても過言ではなく、国際物流における日本のプレゼンス確保は極めて重要な政策課題である。このような観点から、国際物流を通して日本と世界を俯瞰し、如何にして日本がリーダーシップを発揮していくべきかについて考察する。【講義担当：菊地身智雄特別教授(元国土交通省技監)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> |
| 目的 | <p>【目的】</p> <p>世界の中で日本が置かれている現状、日本の役割、グローバル社会を理解するために必要な内容をポイントを絞って学び、知識・教養を高め、果敢として実行力のある意志を培うことを目的とする。</p> <p>【授業概要】</p> <p>原則として、①授業の紹介→②途中休憩を挟んで約100分の講義→③約15分の討議あるいは課題解答の形式で行う。①と③の進行は、毎回小宮学事顧問が行う。②の講義は、学事顧問と特別教授が担当する。</p> | | | | 課題解決型 | | | |
| | | | | | グループワーク | | | |
| 注意事項・ 学習アドバイス | ※対面式の授業です。新型コロナウイルスの感染状況によってはそれ以外の形式の授業に変更になる場合は事前に連絡します。 ※この科目は寄付講座ですので、担当講師は千葉工業大学学事顧問及び千葉工業大学特別教授となります。講義に関するお問い合わせは、教務課に連絡して下さい。 | | | | ディスカッション | ☑ | | |
| | | | | | ディベート | | | |
| 到達目標 | ・自分が学んでいる専門分野について、日本と世界の動向を結びつけて考えることができる。 ・自分が学んでいる専門分野について、日本が世界と強くなっている具体的な一例をあげて、説明することができる。 | | | | プレゼン | | | |
| | | | | | 実験・実習・演習 | | | |
| 評価基準 | 期末試験 0% 中間試験 0% 小テスト(0回)0% 提出物(7回) 100% プレゼン(0回) 0% | | | | フィールドワーク | | | |
| | 各講義担当者(7名の予定)が、講義内容に係るそれぞれ100点満点の理解度確認のための課題を出題する。複数の回で講義を行う講義担当者場合は、出題される課題は1回とは限らないが、各講義担当者の課題の合計得点は100点である。したがって、総得点(満点)は700点となる。課題の指示に従ってレポート等を提出し、全提出物の得点の合計点を7で除した得点が60点以上を合格とする。 | | | | | | | |
| 関連科目 | なし | | | | | 5週 | <p>国際関係論の基礎を学ぶ(1)</p> <p>今日の日本が政治的、経済的、文化的に国際社会と密接に結びついているかについて理解を深める。また、そもそも国家や国民とは何か、これらを規律する国際法の基本原則は何かを理解し、我々が国際的ルールの下に生きていることを理解する。また、国際法の限界を日本と韓国との関係の中で検討し、学生とディスカッションする。このことにより、国際社会、国際法の基本を理解することを目標とする。【講義担当：清水武則特別教授(元モンゴル国駐節特命全權大使)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | |
| | | | | | | | | |
| 参考書・参考資料等 | なし | | | | | 6週 | <p>国際関係論の基礎を学ぶ(2)</p> <p>身近な事例を国際法の観点から検討し、問題点を探る。具体的には、①金正男のマレーシアの暗殺事件から外交特権、主権侵害など国際法の視点から問題点を検討する。②二つの事例は、日産のゴーン元会長のレバノン逃亡事件やフランスで発生した日本人女子留学生殺人事件の犯人とされるチリ人のフランスへの引き渡しなどについて逃亡犯罪人引き渡しに関する国際法とその限界について学習する。学生は、逃亡犯罪人に関する国際ルールとその限界を理解することを目標とする。【講義担当：清水武則特別教授(元モンゴル国駐節特命全權大使)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | 7週 | <p>日本の安全保障環境</p> <p>日本の安全保障環境について調べ、まとめておく。</p> <p>事前 2.5hr 日本の安全保障環境について調べ、まとめておく。</p> <p>日本の歴史的、地政学的な位置付けを理解し、日本の安全保障戦略を理解するための必要な事項を講義する。【講義担当：岩村公史特別教授(元陸特)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | | |
| | | | | | 8週 | <p>東アジア情勢と日本の政治の行方</p> <p>日々刻々と変化する政治情勢やそれを伝える報道の基本的な仕組みについて特に日本を含む東アジアの情勢について講義する。また、世界の中で日本が置かれている状況や、日本の政治に求められている役割についても触れる。【講義担当：石橋文登特別教授(元産経新聞編集局長・政治部長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | | |
| | | | | | 9週 | <p>先進諸国と比較した日本の財政の課題(1)</p> <p>財政の基本的な仕組みを理解した上で、日本の財政制度、予算制度や財政の現状を諸外国、主に米英と比較する。そして、世界に類を見ない財政赤字を抱える日本が将来財政破綻を迎えることがないよう、財政健全化のために今何をすべきか、課題解決の方策を考えていく。【講義担当：田代政司特別教授(元会計検査院事務総長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | | |
| | | | | | 10週 | <p>先進諸国と比較した日本の財政の課題(2)</p> <p>政府の歳入の増大を目的とした増税収入、また、国土の狭小である国土資源確保と特に医療、年金、介護について、日本の制度を概観した上で諸外国の制度と比較検討する。その上で、日本の制度がどう違うのか、なぜ違うのか、利点欠点は何かを考えて、制度が抱える問題点、改善点を探っていく。【講義担当：田代政司特別教授(元会計検査院事務総長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | | |
| | | | | | 11週 | <p>日本人の自然観～作曲家武満徹の場合～</p> <p>武満徹という作曲家は、文章と音楽において日本的なものを世界に認めさせた音楽家である。武満の音楽と文章にふれることによって、日本というものを、自然というものを感ずることができると学ぶ。【講義担当：土屋恵一郎特別教授(前明治大学学長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | | |
| | | | | | 12週 | <p>日本人の自然観～和辻哲郎の風土～</p> <p>和辻哲郎は日本の近代を代表する哲学者の一人であるが、とりわけ「風土」という本によって、日本人の自然観を哲学によって語るることができる。和辻の「風土」とをとおして、日本人の自然観を確かめておこう。【講義担当：土屋恵一郎特別教授(前明治大学学長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | | |
| | | | | | 13週 | <p>日本の大学と欧米先進国の大学</p> <p>入試から、大学での授業、大学生活を振り返って、それが自分の将来に役に立つかどうかを考えておく。</p> <p>イノベーションを生み出す人材を養成する大学、日本と欧米先進国の大学の違いについて、工学教育を例に紹介し、世界を相手に仕事をするためのヒントを教授する。【講義担当：小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】</p> <p>事後 2.5hr 講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。</p> | | |